



## 令和元年台風第19号被害の 対応について

齋藤 忠芳

**問** 台風発生から一年が経過して明らかになった被害状況並びに現在の復興状況及び課題は。

**答** 人的被害は無かったものの、住家の被害として、大規模半壊3件、半壊2件、一部損壊が数件あり、り災証明書発行件数9件、被災を証明するり災届出証明書22件であった。

巾着田曼珠沙華公園の被害として、園路及び駐車場等に土砂の流出入があり、被害面積としては、1万700㎡であった。復旧については、令和元年度の国庫補助事業として災害復旧工事を実施し、今年度への繰り越し事業となったが、6月30日に工事が完了している。曼珠沙華群生地については、

工事により掘り起こされた球根の植替えを行い、9月中旬には発芽が確認された。なお、公園利用

の課題としては、夜間に職員が常駐しておらず、増水時等の避難誘導に対応することができないため、安全な利用方法の検討が必要であると考え

る。日和田山遊歩道の倒木被害については、緑の基金を活用し撤去が完了している。

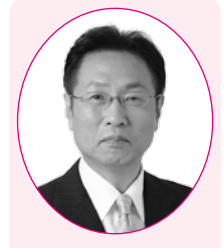
農業被害として、河川や水路の氾濫により農業用機械の水没並びに田畑や農家敷地内の土砂流入があったが、機械の修理及び土砂の撤去は完了している。

橋りょうや道路の被害として、高麗川の異常出水により久保の下橋、新堀橋、新井橋の木橋3橋が流出したほか、高岡地内の市道A265号線の法面が幅20mにわたり崩壊した。これらの橋りょうや道路の被災箇所については、公共土木施設災害復

旧事業費国庫負担法の採択を受けており、市道A265号線の法面は、4月に災害復旧工事に着手し、ここで完成検査を行う予定である。また、木橋3橋については、国との変更協議が9月に完了し、災害復旧工事を行うべく、受注者の選定に入っている段階である。地域間を結ぶ身近な生活道路としての機能を持つ橋であるため、早期に復旧したい。



復興が待たれる久保の下橋



## GIGAスクール構想について

鈴木 健夫

**問** 子どもたちの可能性を開くICT環境での学習は、どのように行われるのか。

**答** 一人一人の状況に応じた個別学習のほか、さまざまな情報の収集・整理・分析が可能となり、学びの進化が期待できる。

**問** ICT環境の整備に起因する周辺地域のネットワーク回線に与える影響は。

**答** 運用する中で地域に影響が生じた際は、通信業者と連携し対応したい。

**問** 学習用端末は家庭での利用も想定しているか。

**答** 臨時休校等の非常時における家庭での利用について検討していく。

**問** 「日高塾」での端末を活用した学習についてどう考えるか。

**答** 推進していきたいと考えており、学校運営協議会で活用方法等の検討をしてもらいたい。

**問** 通級指導教室や特別

支援学級でのICT学習はどのように行われるか。

**答** 学習用端末等を活用した授業は、教育的効果が期待できるので、子どもたちの特性に応じた学習を進めていきたい。

**問** 不登校の児童生徒の自宅でのオンライン学習をどのようにサポートするのか。

**答** 学びの保障をするため、学習用ソフトによる家庭学習やオンライン授業等を考えている。

**問** 学童保育でオンライン学習は使用できるのか。

**答** 学童保育室は教育施設外であり、学習用端末の使用は想定していない。

**問** ICT活用アドバイザーの雇用を進めることについてどう考えるか。また、増員予定はあるのか。

**答** 国の配置基準を目安に配置を検討している。増員の予定はないが、各学校でICT活用の指導

ができる教職員を増やしていきたい。

**問** 子どもたちを守る仕組みとして、学習用端末のセキュリティを含めた維持管理をどうするのか。

**答** 子どもたちを有害情報から守るため、フィルタリングソフトを導入する。また、メンテナンスも日常的に行い、維持管理に努めるが、端末の破損には代替機で対応し、運用面の支障には端末サポートパックで対応する。



子どもたちの可能性を開くICT教育

一般質問の要約